

題改善に向けたアプローチとする。

- | | |
|---------------|--------------|
| ◆場の設定の工夫。 | ◆教具の開発・工夫 |
| ◆教師の指導言の吟味・検討 | ◆ミニゲームの開発・活用 |
| ◆ICT の活用 | |

(4) 言語活動の充実

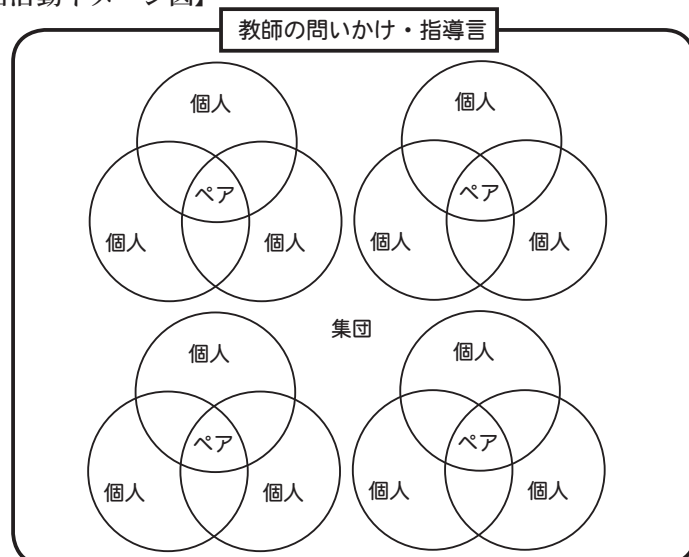
現行の学習指導要領では、体育科においても言語活動の充実が課題とされた。これは、単に無意味な言語活動が行われればよいというものではなく、体育学習の目標や学習内容に沿った言語活動が展開されなければ、体育の学習成果を高める上でも、教育の全体的課題である思考力や言語力を育成する上でも効果をもたらすことは期待できない。児童の思考活動を促し、言語活動の活性化を図るための学習スタイル、場の設定などを工夫していくことが必要である。

そのための一つの手立てとして、例えば「教師の問いかけ」が挙げられる。つまり、教師が計画的に準備した問いかけによって、児童が運動学習や運動観察等の探究学習を行う過程で、児童の言語的表現を引き出そうという試みである。

一方、そのような課題意識を持った児童相互の「見合い・教え合い」の促進も、思考活動や言語活動を活性化する上で有効である。もちろん、その前段として、児童一人一人が、しっかりとした考え、動きや作戦、様相を見ることができるとも大切である。従って、そのような視点を持てるような教師の指導も必要となてこよう。学習カードやふりかえりボードなどによって自分の活動や友だちの活動を振り返り（個人による言語活動）、仲間同士によるフィードバック行動（グループによる言語活動）を行えるような場を意図的に設定していくことが重要であると考ええる。

なお、これらのことについては、保健学習においても、同様のことが言えると考ええる。

【言語活動イメージ図】



【言語活動の流れ】

(☆…活動の拠り所とするもの)

①教師の問いかけ・指導言



②個人による言語活動

☆学習カード、準教科書 など



③ペア・グループによる言語活動

☆ふりかえり板、作戦カード など



④集団による言語活動

☆教師の問い など

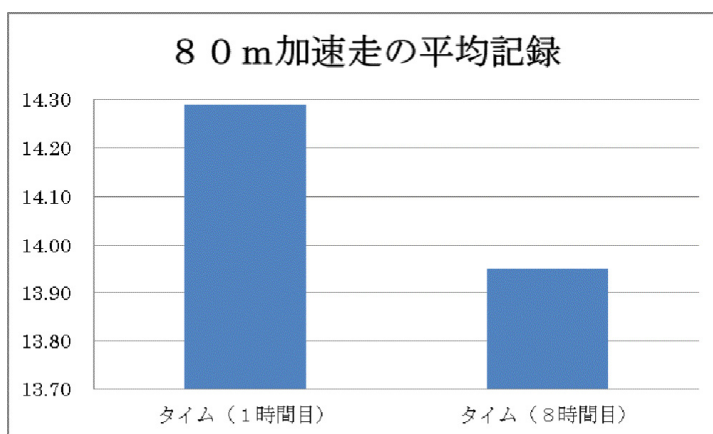
(5) 形成的授業評価やデータを活かした授業改善

学習者である児童に活動を評価させることによって学習を見直したり、より効果的な学習のあり方を求めていったりすることは大変有効である。

その一つは、授業そのものを見直したり、より効果的な学習のあり方を求めていったりすることに役立てるということである。例えば、毎時間アンケートを児童に対して行い、自らの授業に対する評価を行うとともに、得られたデータを分析して次時や次の単元の授業改善に役立てるというものである。ただし、ここで得られたデータは客観的なデータの一つとして扱い、タイムや記録をとって毎時間の伸びを見たり、児童の学習の様子やワークシートを分析したりすることと合わせて、授業の評価や改善を行うことが大切である。

また、児童相互が、友だちの状況を把握し、見合い・教え合いのきっかけにしたり、教師が児童の学習状況を把握して、後の指導に生かしたりすることに役立てるという方法も考えられる。例えば、写真のように、縦軸に技能面、横軸に情緒面を自己評価できるボードに児童一人一人がマグネットを置き、結果を見ながらグループでその根拠について話し合うことで、教え合いのきっかけにしたり、教師がその様子を見取って、後の個別指導に役立てたりする方法もある。

いずれにせよ、指導と評価の一体化を図る上でも、体育科における形成的授業評価やデータを活用し、授業改善に役立てていくことが肝要である。



【引用・参考文献】

体育授業の方法 高田典衛著 1976年 杏林新書

体育の授業を創る 高橋健夫編著 1994年 大修館書店

勢いのある体育学習 2003年3月 鳥取県教育委員会

すぐれた体育授業を観る 解説 高橋健夫著 2007年

小学校学習指導要領解説 体育編 2008年 文部科学省

初等教育資料 2008年3月号 東洋館出版社

体育科教育 2008年5月号, 2009年1月号, 2010年1月号, 2011年4月号, 2011年10月号,
2011年12月号 大修館書店

体育科教育別冊 2008年11月号 大修館書店

小学校体育における習得・活用・探求の学習 やってみる ひろげる ふかめる 2009年 光文書院

新教育課程の実施に向けて 2010年3月 鳥取県教育委員会